

孔雀まで吹かれて來たり春の暮

藤田湘子

贅沢を極めるなら孔雀を飼ってみたいと思う。そのためには、大邸宅に住み、何十羽も放し飼いのできる広い庭と下男が必要である。蛇を恐れず、自らの遺伝子、DNAを子孫たちに伝えようと求愛の羽を広げる雄孔雀とその声には「春の暮」こそが相応しい。

都会で孔雀を見るならやはり動物園だろうか。発想の種は動物園だったとしても、天上世界の孔雀明王に仕える孔雀などを優雅に思い浮かべてみたいものである。

孔雀では、心惹かれる俳句がもう一句ある。

孔雀よりはじまる春の愁かな　　湘子